

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
編集
な か ま 編 集 委 員 会
〒285-0025
佐倉市 鍋木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ 私のマラソン人生「夢は叶うよ」--- 白石義孝 日本ロマンチック街道の旅--- 菅野良彦
3 ページ たかが、されど ----- 矢島とも 「故郷の駅佐倉」の思い出--- 若名さだ子

横須賀歴史探訪

六角 学

昨年11月19日、退職者仲間
で横須賀三笠公園を訪れた。
日露戦争に於いて連合艦隊司
令長官東郷平八郎が乗艦した
戦艦「三笠」を見学した。

日露戦争の全貌をビデオで
学習後、艦内を見学。中甲板
艦尾の艦長室・司令官公室
から資料室、そして心臓部で
ある操舵室は、約30センチ厚の鉄
板で囲まれていたのには驚い
た。

バルチック艦隊を対馬沖に
邀撃して圧倒的な勝利を収め
た東郷平八郎と秋山真之以下
参謀が勢揃いした足跡が印さ
れている甲板に立ち、「皇国ノ
興廃コノ一戦ニアリ」の心
境に浸った。

昼食は、話題の海軍カレー
を「横須賀カレー人気店コン
テスト」第1位「ウッドアイ
ランド」で賞味した。

店主の話では、明治時代日

本海軍の食事は栄養バラン
スが悪く、脚気にかかる兵士が
多くいた。そこで考えた海軍
は、イギリス海軍の食事に目
をつけ、カレー味のシチュー

に日本人に合うように小麦粉
を加え、トロミをつけご飯に
かけて食べるようにした。そ
れをアレンジして作ったカレ
ーライスは栄養バランスも良
く、海軍でも人気メニューと
なった。

私達が使用したスプーンは
今まで使った事もない底の浅
い変わった形状だった。それ
は狭い艦内ではいかに早く食
るか、と海軍が独自に考案し
たとの説明も受けた。

次に、横須賀製鉄所を建設
したフランス人技師ヴェルニ
ーを記念し、フランス庭園様
式を取り入れた公園を散策し
た。

米海軍第七艦隊や海上自衛

隊の艦艇が間近で見られる日
本唯一、約50分のクルージン
グを楽しんだ。前半は、横須
賀海軍鎮守府と横須賀海軍工
廠だった「米海軍横須賀海軍
施設」のある横須賀本港、後
半は長浦港の海自エリアで、
軍艦や護衛艦の勇姿が見られ
た。

幸運にも北朝鮮による、延
坪島(ヨンピョド)砲撃前で
主力艦原子力空母「ジョー
ジ・ワシントン」やイージス
艦を、目の前で見ることができ
その迫力を感じた。

その後、間もなく空母は24
日に黄海での米韓合同軍事演
習に横須賀港を出港した。
帰りは、戦後駐留軍相手の
アメリカナイズされた飲食店
街として繁盛し、現在は、ネ
イビーグッズ等で若者に人気
のどぶ板通りを歩き、小説
「坂の上の雲」のシーンを思
い浮かべながら横須賀を後に
した。

(編集委員)

私のマラソン人生 「夢は叶うよ」

私は今、感動至福を胸にしてマラソン体験談を学童保育の子ども達に語っている。私の子供の時の夢が叶った瞬間である。その夢は「高校駅伝実況中継」の名勝負に心打たれ大人になったらマラソンの面白さを伝えるアナウンサーになると。

夢は封印されたが48歳の時に転勤でマラソンの町佐倉で花開き、具体的な実行計画を作る。

一、自らがランナー（芸名ホワイトスッポン）となつて、全国を走りまくり仲間を増やす。

二、有名選手と出会い写真を撮りお礼にエッセイを渡す。計画通りに進む。富士登山競争は仲間と7回挑んだ。毎回へ口へ口。

60歳を迎え、いざという時に2度骨折。これ乗り越えて63歳から快進撃が始まる。

佐倉、千葉、マスターズと

連続年代別入賞を経て次はフルマラソン入賞を目指す。

河口湖フルマラソンの舞台へ。前半快調に飛ばし、2位を確保。疲れて5人に抜かれ37km地点ではもう一人にも抜かれ8位へ。その時、神の声が聞こえた。「お前はスッポン。喰らいついて離れないではなかったのか」と。喰らいつくぞ。ラスト1kmで一人を抜き更にもう一人も抜きゴール。6位入賞。感動に酔いしれながら思った。もし、神の声が聞こえなかったら6位はあり得なかったと。

材料は整った。この体験談・有名選手との写真・エッセイを「私のマラソン人生」と題してアナウンスして行く。子供とは大いに夢を語る。「夢挑戦の彼方に感動が待っている」と。

今度は君の番ですよ。

もう一度言います。

「夢はきつと叶うよ」。

(西志津 白石義孝)

日本ロマンチック街道 の旅

日本ロマンチック街道ステッカーラリーってご存知ですか。ドイツのロマンチック街道から認定された街道が、何と長野県上田市から日光までの約300^{km}に渡り在るので

す。その間の名所にチェックポイントがあり、そこで記念ステッカーを購入し台紙に貼りながら旅を続け完走します。

毎年4月から11月中旬までの期間内で完走を目指せばよく、昨年は夫婦で2回完走いたしました。期間が長いので、ドライブをしながら今月はあのエリア、来月はあのエリアとコツコツと毎月旅が出来る、そのエリアでの景色や味を堪能出来るそんな旅です。

中には、歩いて周る方や自転車やオートバイで周る方もいらつしゃいます。元々は、仕事で軽井沢と佐倉を二地域居住の様にしており、ただ高速で行ったり来たりするのであ

ればと、昨年初めて夫婦でチャレンジしました。知り合いの御夫婦にも話したら、時折電話が入り「来週は沼田エリアを周るよ、何処か美味しいお蕎麦屋さんあるかな」等と情報交換しながら楽しみました。

各観光地のエリアごとの名所をデザインしたステッカーも思い出に残りますし、完走すると完走認定証とゴールしたエリアの記念品まで戴けます。我が家は1回目のゴールは沼田エリアで蜂蜜を戴き、2回目のゴールは軽井沢エリアでしたのでブルーベリーのジャムを戴きました。完走認定証は額に入れて飾っています。是非、今年も毎月の旅の計画の一つに加え、チャレンジしてみたいと考えています。

まだまだ沢山知らない良い処を発見する旅に出掛けませんか。

(大崎台 菅野良彦)

たかが、 されど

自分の子はちゃんと躰ける。そう思ったのは、随分前ですがその時からずっと気にかかっていることがあります。箸の持ち方です。正しく持てない人が多いいです。外食の機会があれば他人の箸捌きを盗み見るのが常になっています。テレビも気にして見ます。

この頃食べる番組が多い。あれで豆をつまめるだろうか。大抵は、親指と人差し指を動かして中指が使えていない。正しい箸使いは中指の動かし方で決まります。箸二本が交差していたり、くつついていたりする。あれで不自由でないのでしょうか。

気になり始めた頃は、年配者は安心して見ていられます。いまはそうでもないのです。大女優がホームドラマなどでおかしな箸使いをしていると、とたんに興ざめです。箸の使い方を、ひとを評価

する物差しにしている自分がい

ます。テレビで若いキャスターが正しい使い方を習うというのがありました。彼女は恥ずかしそうに、しかし一生懸命小学生と並んで豆つまみレースに挑戦していました。NHKが取り上げたので我が意を得たりの思いがありました。

最近朝日新聞も『Hug・はぐ・育む』というシリーズで載せました。

関心のある人がいないわけではなさそうなので心強いのですが、まわりをみれば相変わらずです。

たかが箸、されど箸、私には日本人の品格が落ちているとしか思えてしょうがない。そしてこれは断然家庭の躰の問題であつて学校へ任せることではないと思います。みなさまはいかがお思いでしょうか。因みに息子はちゃんと使えています。

(上志津原 矢島とも)

「故郷の駅佐倉」の 思い出

駅の周りはビルが建ち並び近代的な駅に変わり、入口にはブロンズ像「翔」が平和の祈りを捧げてたつている。昔の面影はない。でもホームに立つと私には見えてくる大好きな停車場の風景。ホームに入ってくる列車は、いつもデ

ツキまで人があふれ、乗降客でごった返すその中を制服姿の駅弁売りのおじさん達が人波をぬって売り歩く。あちこちの窓から身を乗り出して買う人々。やがて列車が走り去ると静けさがもどりのどかな田園風景となる。停車場は一日中居ても退屈しない私達子供の遊び場だった。蒸気機関車は屋根に季節はずれの雪を乗せてきて私を喜ばせてくれた。

また、駅にはいつもドラマがある。様々な人々が集まりそして散っていく。出会いがあり別れがあり喜びがあり哀

しみがあった。戦地へ向かう兵隊さんを送ったこともある。列車が見えなくなるまでぎれる程ふった手。そんな光景に子供心に胸をときめかせたり、涙ぐんだりもした。

国鉄からJRに変わり駅弁を売るおじさん達の姿はホームから消えた。改札口は階上になりホームが見えなくなつてしまった。戦中戦後の激動の日々も汽笛を力強くならし人々の思いを乗せて走り続けた蒸気機関車も消えてしまった。

時代と共に大きく様変わりをした駅。それでも私は駅をこよなく愛している。

幼い日のあの停車場が私に与えてくれた郷愁は、今も心の支えであり大切な宝物である。心休まる場所でもある。

しばし思い出にふけていた私。誰かの明るいう着メロが私を平成の時代にもどしてくれた今日の佐倉駅。

(鍋木町 若名さだ子)

3月の黒板

『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いただいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等の修正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

わくわく道

佐倉市の水道水は美味しいと言いますが、全量地下水でまかなっていた頃はもつと美味かったように思います。

現在、佐倉市は千葉県公害防止条例（地盤沈下防止）の地下水採取規制地域に指定されています。このため、市の浄水場で井戸から汲み上げた地下水に、千葉県柏井浄水場経由で送られて来る利根川の水を一部混ぜて各家庭に配水しています。

いま、八ッ場ダムの建設中止をめぐり推移が注目されています

が、このダムが完成すると利根川の水の混合割合を現状からさらに引き上げる計画のあることを以前、聞いたことがあります。

この計画がどうなっているかわかりませんが、利根川の水の割合が増えると美味さはどうなるのか、このダム計画が水道水の美味さに関わっていることは間違いありません。

（金井義彰）

あともがき

「恩送り」という言葉を知った。佐倉に移り住んで38年、勤めの傍ら2人の子育てをし、義父母を看取った。長い勤めから解放され、佐倉について何も知らない自分に気がついた。終の棲家となるはずの地域でさえも、ご近所以外は知らない人ばかり。ここに至るまで、どれほど人様のお世話になってきたことが、直接お礼は言えないが、誰かに

小さな優しさを届けることは出来る。少しでもお役に立ちたいとの思いから、ささやかに動き始めた。

「恩送り」とはこんな意味らしい。家族や自然への思い、自戒や社会への警告等々、『なかま』にも様々な「恩送り」を読み取ることが出来る。それが次へまた次へと伝わることを願って、今月も『なかま』をお届けする。

（松山洋子）